

kumu社：包括的なオブザーバビリティを実現してサービス稼働率99.9%を達成

主な課題

アプリケーションがサイロ化してシステム障害の解決が長引き、コストの増加に歯止めがかかりませんでした。

主な成果

Splunkでデータ分析を集約、自動化したことで、環境全体の可視化を実現し、プラットフォームの稼働率を最大限に高めて、シームレスなユーザーエクスペリエンスを提供できるようになりました。



業種：オンラインサービス

ソリューション：セキュリティ、オブザーバビリティ

ユーザー数急増への唯一の対処法は、後れをとらないこと

Kumumedia International (kumu)社は、フィリピン最大のソーシャルエンターテインメントプラットフォーム「kumu」を提供しています。アプリのダウンロード数は世界中で約2,000万件に及び、1カ月あたり6,000万本のストリーミングライブが視聴され、今や数あるアプリの中で屈指の収益を誇ります。kumu社は、急増するユーザー数のニーズに対応するために新しい機能やサービスを次々と投入しています。その体制を支えるため、コアアプリケーションをアマゾン ウェブ サービス(AWS)で運用し、その他の新しいアプリケーションをGoogle Cloudで運用するという、マルチクラウドのアプローチを採用しています。

一方で、ユーザー数の急増により、予想しないトラフィック急増やプラットフォームの機能停止が発生するようになりました。障害によってストリーミングライブイベントが中止されることもあり、それを視聴する予定だった何千人ものユーザーの期待を裏切ることになって、企業の収益や評判に悪影響を及ぼしていました。根本的な問題は、kumu社のサイロ化したインフラにありました。多種多様なオープンソースソリューションや監視ツールが混在していたため、トラブルシューティングの負担が大きく、問題の解決に時間がかかっていたのです。さらに、トラフィックの急増に対応するためのコストが肥大化し、既存の監視ツールや分析ツールの年間利用料の予測総額も上昇していたため、経営陣や財務チームから問題視されていました。

kumu社にはオブザーバビリティソリューションが必要でした。具体的には、料金の予測が可能で、環境全体を包括的に可視化でき、トラブルシューティングとサービス復旧を迅速に行え、ユーザーエクスペリエンスを改善できるソリューションです。そしてたどり着いたのがSplunkでした。

成果

99.9%
サービス稼働率

70%以上
マルチクラウド監視の
人員削減率

75%
トラブルシューティング
の時間短縮率

稼働率を最大化してユーザーエクスペリエンスを飛躍的に向上

Splunkの導入はkumuプラットフォームのサービス稼働率の大きな転換点となりました。すべてのクラウドをリアルタイムで監視し、アプリケーションの運用をエンドツーエンドで可視化することで、サービスの稼働状況を即座に把握できるようになりました。これにより、各種のシステムを手動で確認する必要がなくなっただけでなく、潜在的な問題をすばやく検出し、ユーザーに影響が及ぶ前に解決できるようになりました。

さらに、Splunkでデータを活用して、アプリケーションやインフラに関する実用的なインサイトを引き出し、その情報に基づいてパフォーマンスを最適化することで、ダウンタイムの削減とユーザー満足度の向上につなげることができました。システム障害の予測も可能になり、現在ではサービス稼働率99.9%を達成しています。

「Splunkのおかげでテクノロジーの統合も順調に進んでいます」と、kumu社のエンジニアリング担当バイスプレジデントであるEllard Capiral氏は評価します。「Splunk Observabilityのおかげで、クラウドプロバイダーが提供するツールやテクノロジーも、データベースやその他の監視ツールも、すべてを簡単に統合できます。直感的に使えるダッシュボードでIT環境全体を包括的に可視化することで、監視能力を底上げできました」

より少ない労力でより多くを達成

Splunkの自動化機能は、問題の検出と解決の迅速化だけでなく、人的ミスの削減にも役立っています。「以前はマルチクラウド環境を7人の担当で監視していましたが、今では2人で十分です。さらに、パフォーマンスの問題を特定してから修復するまでに以前は2時間ほどかかっていましたが、現在ではすべてを30分以内に完了できます」とCapiral氏は説明します。つまり、kumu社は、システム監視に必要な人員を70%以上削減したことになり、その分、より重要なタスクに人員を割り当てられるようになりました。しかもトラブルシューティングにかかる時間を75%短縮しています。

将来に向けた拡張性とセキュリティを確保

予算面では、Splunkの価格体系にはkumu社が求めていた柔軟性があり、コストの肥大化と予期せぬ支出を抑えることができました。Splunk Observabilityの価格体系は、予測の難しいデータ量ベースではなく、30日間の平均使用量を基準にした使用量ベースであり、分析、保護、監視対象となるデバイスやホストの数に応じて課金されます。そのため、過剰なコストが発生するのを回避し、オブザーバビリティ支出を簡単に予測できます。新しい機能を導入し、データ量が無制限に増えても、保護対象となる資産数で予算を見積もることができます。

Splunk Observabilityは拡張性にも優れているため、ユーザー数の急増にすばやく対応できます。「組織全体で複数の異なる環境を運用しており、数台のサーバーしかない環境もあれば、大規模な分散システムを展開している環境もあります」とCapiral氏は説明します。「Splunkソリューションは拡張性が高く、大規模で複雑な環境でも簡単に監視できます」

kumu社では、Splunkをオブザーバビリティの向上だけでなく、サイバーセキュリティ態勢の強化にも活用しています。Splunk Incident Intelligenceで、オンコール管理、インシデント対応、トラブルシューティングを統合して、想定外のダウンタイムをさらに削減しています。これにより、フィリピンの人々の声を世界に届け、世界中のユーザーを引き込むというミッションの達成に向けて大きく前進しました。



Splunkは、複雑なマルチクラウド環境のアプリケーションとインフラを監視、トラブルシューティング、最適化するための堅牢なソリューションを提供してくれます”

kumu社エンジニアリング担当
バイスプレジデント、
Ellard Capiral氏

Splunkを無料でダウンロードするか、Splunk Cloudの無料トライアルをお試ください。Splunkは、クラウドかオンプレミスか、また組織の規模の大小などにかかわらず、お客様のニーズに最適な展開モデルをご利用いただけます。



お問い合わせはこちら：https://www.splunk.com/ja_jp/talk-to-sales.html
〒100-0004 千代田区大手町1-1-1 大手町パークビルディング 8階

www.splunk.com/ja_jp
splunkjp@splunk.com